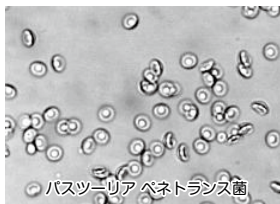


パストリア水和剤技術情報

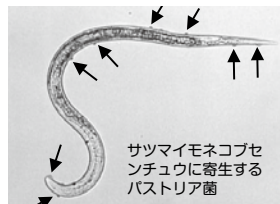
パストリア水和剤の特性

特長

- 生物農薬でありながら扱いが簡単
- サツマイモネコブセンチュウを餌にして自己増殖する
- 他の防除技術との併用が可能
(クロルピクリンおよび蒸気消毒は除く)
- 有機農産物に使用可能な適合農薬
(天敵微生物)
- 環境および作物にやさしい

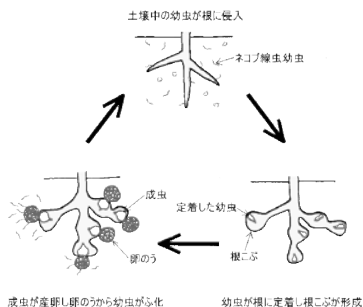


パストーリア ペネトランス菌

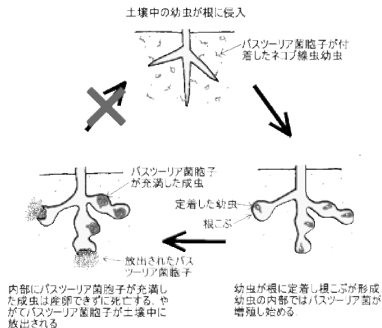


サツマイモネコブセンチュウに寄生するパストリア菌

ネコブセンチュウの増殖方法



ネコブセンチュウの増殖とパストーリア菌の感染



使用上の注意点

複数作連続使用が望ましい

収穫後の耕起で次作の株元のパストーリア菌濃度が薄まる可能性があります。株元の菌密度を維持するため、次作も使用することをおすすめします。

定植時の線虫数に注意

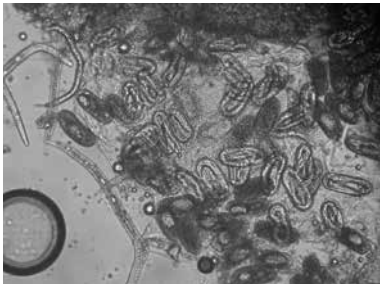
定植時の線虫数が多すぎるとパストーリア菌の効果が不十分な場合があります(他の防除方法との併用)。

処理後の灌水

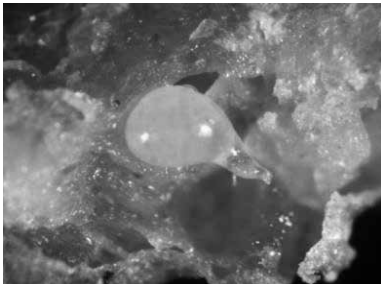
パストーリア菌は自分では動けないので、処理時の薬液量および処理後の灌水量が少なすぎると線虫が加害する場所に到達できず、防除効果が十分に出ない場合があります。

パストリア水和剤と従来の線虫剤との比較

	パストリア水和剤	従来の線虫剤
作用ステージ	2 期幼虫～成虫	卵、幼虫
根こぶの形成	有	無
効果の早さ	遅効的	速効的
処理後の有効成分量	増加 (サツマイモネコブセンチュウ存在時)	減少
残効	長い(数年単位)	比較的短い
効果の判断	作物の生育状況	根こぶ形成の有無、作物の生育状況



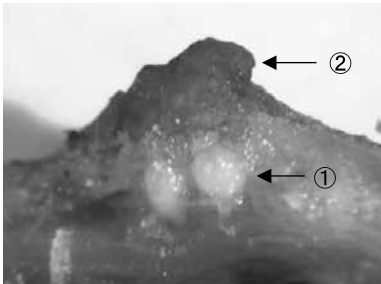
▲ネコブセンチュウ 1 期幼虫 (ふ化前)



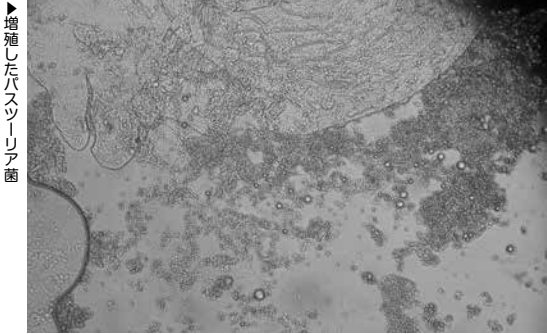
▲根こぶ内の雌成虫



▲ネコブセンチュウの卵のうを染色した様子



▲根の導管に食い込むネコブセンチュウの雌成虫(矢印 1)と卵嚢(矢印 2)



▶増殖したパストリア菌